



筑紫路

発行
自衛隊福岡病院
春日市小倉東1丁目
61番地
TEL 092-581-0431



自衛隊福岡病院長兼
春日駐屯地司令
陸将補 森 知久

『啐啄（そったく）の機』

令和五年夏、焼けつくような暑さの中、自衛隊福岡病院で一人の薬剤師の定年退官行事が行われた。三十五有余年日本全国を駆け巡り、陸上自衛隊衛生のため、防衛省・自衛隊のために奔走した先輩の最後の晴れ姿である。沢山の病院職員に囲まれ、優しいような奥様と一緒に送られる戦友の姿に心からの感謝と一抹の寂しさ、そして時代の流れを感じた。

万歳三唱の後、喧騒とともに戦友が去った病院内の道端に、黒い塗装が剥げかかった二メートル弱ほどの角材でできた古びた木碑がひっそりと立っていた。『啐啄の機』と記されたその木碑は、これまで幾人の病院職員の活躍や異動・退官を見守ってきたのであるうか。

『啐啄の機』とは、雛鳥が生まれる際に、雛鳥（啐）と親鳥（啄）が卵の内側と外側から同時につつくことにより卵の殻を破って生まれてくることから例えた「成長するものとそれを導くものとの間に生まれる絶妙の機会」のことを言う。平成に入ってから病院の廃止が何度も噂された自衛隊福岡病院がそ

れを避けようとする病院職員達の協力により、平成十八年に地域の力を得ながら保険医療機関としての役割に使用された言葉である。『啐啄の機』を的確に捉えて、病院の存続につなげた先人たちの執念と努力に頭が下がる思いである。

近年、陸上自衛隊は「強靱な陸上自衛隊の創造」という目標を掲げ、有事等の際に実効的な防衛力を発揮できることを目指してきた。そこに、ウクライナ戦争や中国の台湾政策の影響等により、日本の防衛力の抜本的強化が強く求められる時代となった。まさに『啐啄の機』である。自衛隊福岡病院も同じである。老朽化して昭和の匂いがするレトロな病院を何とか新しい近代的な病院に建替えるという長年努力していた所に、昨年十二月に策定された国家防衛戦略で「衛生機能の変革」が強く求められ、その結果自衛隊福岡病院の建替え予算枠も確保された。これから何よりも大切なこととは、先人と同様にこの『啐啄の機』を的確に捉えて、病院の建替え等による「衛生機能の変革」を確実に実行していくことである。有事の際、九州における衛生支援態勢の要となる基幹病院の長として、地域の皆様や関係する部内外の皆様のご理解・ご協力を頂きながら、病院職員と力を合わせて変革の実行に邁進していく所存である。



自衛隊福岡病院
最先任上級曹長
准陸尉 濱 良道

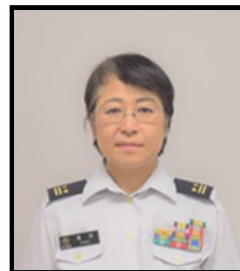
今日もニイニイゼミの鳴き声が元気の春日駐屯地、セミの成虫寿命が意外に長いということ、セミについて調べてみました。幼虫は三十七年、成虫としての寿命は一か月程度あるとのこと。他にもイソップ物語のアリとセミだつた。道路で裏返っている半死半生のセミは足が開いていると生きている。などの雑学もありました。

寿命の話に戻りますと、子供の頃セミの寿命は一週間と覚えていましたが、意外と長いようです。とはいえ日本人の平均寿命は男性八十一歳、女性八十七歳と比較すると人の方がはるかに長寿です。ステイブジョブズが「もし今日が人生最後の日だったら・・・」と言っていることが、極論的な気はしますが、人の死亡率は100%、時間を大切にしないと言いうことでしょうか。

現代人は死を目の当たりにすることが少なくなりました。自分の死を想像することも難しくなっています。夏になると道に裏返って最後まで鳴きつづけているセミは寿命の有限さを身近で、声を出して教えてくれる貴重な命かもしれません。セミファイナル（造語）裏返って死んだと思ったセミが実

は生きていて、突然暴れだす現象があります。最後まで力いっぱい生きていたセミを見て命の大切さを認識し自らの最後、ハマファイナルまで力いっぱい生きようと思わせられます。帰り道、足の閉じたセミがいたら、よく頑張ったと声をかけたい。

新看護部長の紹介



自衛隊福岡病院
看護部長
2等陸佐 笹井 輝子

この度、看護部長に上番いたしました。西部方面隊での初めての勤務ということで心躍り楽しみにしてまいりました。病院利用者さんのフロントラインでケアを提供する看護職が元気で、病院の活気の源であり続けるよう『明るく・楽しく・前向きに』をモットーに努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



春日市防災訓練

六月十一日春日市防災訓練に参加し、第四師団隷下部隊、航空自衛隊、警察及び関係部外機関等との協同による情報収集及び救出活動を実施して、地域との連携を強化しました。



関係部外機関等との連携

救護所における応急治療

准看山地機動訓練

准看護学院（学院長・松尾二佐）は令和五年六月十六日、第四十八期学生の第一回山地機動訓練を背振山系で実施しました。福岡病院長の視察、最先任上級曹長の同行を受け、行進間における応急処置及び患者後送を実施しました。

本訓練を通し、救護能力及び小部隊の実員指揮能力が向上するとともに、体力・気力向上の必要性を学ぶことができました。



准看水難救助訓練

准看護学院（学院長・松尾二佐）は令和五年七月二十五日から二十六日の間、第四十八期学生の水難救助訓練を実施しました。最先任上級曹長の視察を受け、晴天の中、海での溺者救助法、消防夫搬送及びBLSを演練しました。水難救助法の知識・技術を概ね習得し、その重要性和難しさを学ぶことができました。



消防夫搬送で溺者救助の演練

春陽会総会（令和五年度）

令和五年五月二十八日（日）に令和五年度春陽会総会が実施されました。牟田会長を始め多くの会員及び病院職員の参加の中、総会を皮切りに病院長の防衛講話と意見交換会が実施され、春陽会会員と病院職員との親睦を深めました。



牛頸川清掃支援

令和五年七月十七日に春日市の牛頸川清掃ボランティアに春日駐屯地修親会、曹友会が参加しました。また、救護員も派遣し安心して活動できる支援を行いました。先日までの豪雨のため水量が増しましたが地域の皆様との交流を深めました。



職場紹介（復職支援班）

総務部総務課復職支援班（メンタルサポートセンター）です。西方管内のメンタル不調者の復職（職場復帰）を専門に部隊家族と連携し復職訓練の助言や部隊に出向き復職支援会同などにより、復職後も安定して勤務できる支援を実施しますので今後ともよろしくお願いいたします。



久保田1尉 松田1尉 崎岡2曹

定年退官者の紹介

《五月四日付》	准陸尉	林	剛
《五月六日付》	三等陸佐	佐熊	直子
《五月二十五日付》	准陸尉	井野	智加徳
《五月二十六日付》	二等陸佐	林	由美子
《六月二日付》	二等陸佐	藤武	真理子
《七月二十四日付》	一等陸佐	江島	正美
《八月二日付》	三等陸尉	武下	英雄
《九月十五日付》	二等陸佐	高橋	雅宣
《九月二十六日付》	三等陸佐	高井	静枝
《九月三十日付》	二等陸佐	古賀	丈博

人事往来

〈転出者〉

《八月一日付》	診療技術部長	濱地	理通	（熊本へ）
看護部長	一等陸佐	佐藤	保子	（三宿へ）
企画室	一等陸尉	玉川	一博	（三宿へ）
診療科	一等陸尉	佐々木	慧	（三宿へ）
	一等陸尉	田上	裕司	（三宿へ）
	三等陸尉	平本	剛士	（三宿へ）
	三等陸曹	長濱	愛	（八重瀬へ）
看護部	二等陸尉	東	七穂	（那覇へ）
	二等陸尉	小林	のぞみ	（三宿へ）
	二等陸尉	酒井	菜摘	（福岡へ）

〈転入者〉

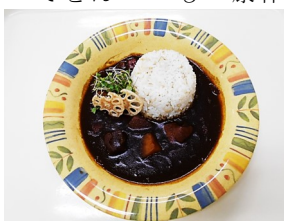
《八月一日付》	看護部長	笹井	輝子（川西から）
総務部	二等陸佐	後藤	雅史（福岡から）
（医事課）	三等陸佐	庄崎	和弘（福岡から）
陸曹長	（給食課）	福島	孝生（都城から）
（総務課）	一等陸尉	森岡	麻衣（福岡から）
二等陸曹	波多江	繁幸（那覇から）	
三等陸曹	森田	圭祐（習志野から）	
診療科	二等陸佐	井上	梯仁（三宿から）
	一等陸尉	齋藤	啓太（三宿から）
	一等陸尉	高橋	駿（三宿から）
陸曹長	一等陸尉	二見	紘史（三宿から）
看護部	下園	陽輔	（飯塚から）
一等陸尉	半澤	由香（国分から）	
一等陸尉	柚木	直美（玖珠から）	
二等陸尉	庄村	なえ（川西から）	
二等陸尉	柴田	奈津美（福岡から）	
診療科	大島	菜穂（三宿から）	
陸曹長	西山	水思（三宿から）	

献立紹介（名物第二弾）

ブラックジャックカレー

「白衣の天使カレー」に続く、駐屯地名物カレー第二弾として、令和元年十二月より提供しています。じっくり煮込んだ牛すじが入った黒カレーです。

『美味しく体の中から健康に』をテーマに、ご飯にはもち麦を使用し、ブラウコリス、プラウト、れんこんチップスをトッピングしています。



建替工事に関するお知らせ

#1

今回号から病院建替のお知らせを掲載することになりました。新病院は、「自衛隊における九州の基幹病院として、隊員はもちろん国民の皆様にも信頼される病院を目指す」を基本理念とし、地下一階・地上七階の高機能化された病院を計画しています。今年度の終盤から土木関連の準備工事を開始し、本格的な建設工事は、令和六年度着工を予定しています。工事の間、近隣の皆様方には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願い致します。



新病院 完成イメージ